

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102418		
法人名	社会福祉法人 日生会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ステラの風		
所在地	熊本県熊本市南区並建町758		
自己評価作成日	令和4年10月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・おひとり、おひとりの生活リズムや持ってらっしゃる力に合わせて、支援していきます。  
 ・地域との繋がりを大切に、また地域住民とし、それらを利用者様にも感じていただきたく、地域行事への参加を積極的に取り入れています。また、施設の事、認知症の方を知ってもらう機会にも繋がりが繋がりたいと考えています。  
 ・地域連携の為、看護師中心とした看護・介護共に対応し、看取りまで経過を施設内外の研修等でスキルアップを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の持つ潜在能力を生かした生活や、高齢期にあっても自立した生活及び笑顔ある日常はグループホームの本来の家庭的なぬくもりのあるホームが形成されている。ホームの存在は“ステラの風通信”の回覧により発信し、地域の一人として入居者と一緒になって取り組む毎月の清掃活動、回覧板の受渡し、エコバック作りは入居者の生活の生きがいとなり(コンビニで住民が使用)、保育園児との相互交流等地域での生活基盤が確立したホームである。理念と共に介護目標の達成に向けた真摯な取り組みは、ケアの中に具体的に表われ、家族へのアンケート及び職員のアンケートをホーム運営に反映させている。看護職員や夜勤と宿直等職員体制を手厚くし、コロナ禍といえども多くの外出の支援や、毎月の防災訓練等危機管理の高さ及びホームの日常はブログにより確認出来、家族の安心にも繋げており、次なる展開に大いに期待したいホームである

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:お一人お一人が「その人らしく」輝き続けるように私たちが寄り添います。2. 色々な方々と出会いを大切に、最後までその人らしく過ごせる場所を提供し日々の生活が送れるように支援します。介護目標最後まで笑い・共に喜び・安心・安全に穏やかな生活を送ることができる。また、理念に沿って支援が行えているか月に一回職員会議にて振り返りを行っています。	入居者の「らしく」に注視した生活は理念の実践の表れで有り、入居者の入れ替りも少なく、できる事を見出した活動により充実した日常を支援している。新規入職者には法人全体での研修による指導し、中長期計画の中で理念の発信が職員の振り返りに反映させ、次月の目標へと繋げている。最後まで笑い・共に喜び・安心・安全に穏やかな生活とする介護目標も日々の生活に表出し、その様子はブログを通じて発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策に伴い、地域の祭りや小学校との交流ができませんでしたが、緊急事態宣言以外では、みのり保育園と交流や地域のイベント(どんどや)や地域清掃活動、回覧板を利用者様と一緒に持って行き地域の方々と交流を図りました。	地域の中での生活基盤が築かれ、自治会への加入は入居者とともに回覧板に受渡しに回ること散歩として生かされ、保育園児との交流(和太鼓の披露・折り紙交流等)等コロナ禍とはいえ充実した地域の中での生活である。また、毎月入居者と共に行うゴミ拾い等地域の一員として活動し、入居者と作るエコバック(新聞紙の活用)は、コンビニの置き住民に使用されいる。また広報誌の回覧が地域への啓発の一環として生かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策に伴い、本年はボランティア活動や地域の方々と繋がる機会がありませんでしたが、並建の回覧板にステラ通信と一緒に回してもらい、認知症の発信をしています。また、利用者様と一緒にエコバックを作成し、地域のコンビニにて無料配布を行い、地域の方々や、買い物客にステラの風を知っていただく取り組みを始めました。また、模索しながらではありますが、継続していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面ではありますが、包み隠さず報告し地域の方々、家族の意見を取り入れています。	コロナ感染症の状況によっては書面開催とし、報告書と共に質問表を同封して配布したり、公民館を活用し対面で開催している。事故・ヒヤリハットでの意見交換や身体拘束検討会議の報告等透明性ある会議である。ホームの報告が更に地域の情報リサーチの場としても生かされていることは、保育園児の和太鼓披露に繋がる等委員の情報がホーム運営に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点は市役所に確認を行っています。事故や感染症等必要と思われる事由発生時は迅速に報告・連絡でします。	運営推進会議の開催に向けた相談やアクセシビリティでのやり取りにより適切なアドバイスを得る等協力関係を築いている。介護認定更新を代行し、訪問時の情報発信や意見交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・マニュアルを通してケアの確認を行っています。利用者様が自由に生活を送れるような体制・声掛けを行い、帰宅願望がある利用者様には外出(買い物・散歩等)での対応を行い気分と転換をさせるようなケアに努めています。	身体拘束“ゼロ”宣言を掲示し、研修や毎月のマニュアルの確認により全職員が意識を強化している。転倒リスクの高い入居者に使用するセンサーマット・人感センサーについてその必要性を検討し、職員の言葉使いについてお互いに注意喚起している。外出傾向・帰宅願望入居者を把握し、気分転換としての外出等を支援している。	職員は入居者の所在確認の徹底に努めている。日々の地域への散歩が住民との顔見知りとなり一人での外出もされているようであるが、職員の手薄時間帯について全員で外出傾向の高い入居者対応については再度検討いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し虐待の防止について考える機会を持つようにしました。また、日ごろから職員同士で協力し心の余裕を持つように心がけています。また、月1回の全体会議でマニュアルの確認を行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者様の利用はありませんが施設内の研修を通して、学ぶ機会を確保しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、ご本人様・ご家族様に分かりやすく丁寧に説明を行い、ご理解頂き同意を得るようにしています。不明な点等がある場合は、その都度説明を行っています。また料金の変更があった際はご家族様に説明を行い同意を頂きました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染拡大に伴い、家族会は実施できていないため、電話連絡時や面会の際、意見や要望を頂きました。利用者様には各々担当を決め要望や、意見の抽出を図っています。また、苦情があった際には報告書を作成し職員に周知徹底を図ります。	家族会の開催がコロナ禍で出来る状況に無く、家族との接点が少なくなり、新規入職者を“ステラの風通信”での紹介、頻回に訪問できない状況にはホームの日常をブログで発信し、家族の不安解消に努めている。電話や訪問時に意見や要望を聞き取りするとともに家族へのアンケートにより思いを引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションによる意見交換、全体会議による職員の意見や提案を聞き日々のケアに繋げるように努めています。	管理者は日頃から職員の意見を聞いたり、相談しながら良い方法を検討する等風通しの良い関係を築き、更に職員向け意見箱を設置する等職員の意見を大切にしている。全体会議では職員の意見をもとに話し合い、委員会活動等責任感や働きがいのある環境としている。職員体制も夜勤と宿直を置く等夜間帯も手厚くしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の強みや得意分野に応じて、担当を振り分け、責任とやりがいを持って仕事出来るよう努めています。また、毎月の希望休の取得、誕生日休暇、必要時有休取得、就業時間の帰社の声掛けを実施しメリハリを持って仕事出来るように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・オンライン研修を取り入れ、研修を受ける機会を確保できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域ケア会議は中止の為、メールでの情報交換を行い熊本市ブロックの会の会員になりネットワーク作りを行っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様にアセスメントをしっかり行い不安な事には傾聴の姿勢で対応します。コミュニケーションをこまめに行うようにしています。職員間で情報を共有し安心していただけるように統一した声掛けと説明を行います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立ってしっかり話を聞き、受け止めながら関係を築くことに努め、困っていること、不安に思っている事・要望に迅速に対応するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話と要望をしっかり伺い「その時」まず必要としている支援を考え対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除等の日常生活の中で本人様の状態や状況に応じて、職員と一緒にしてもらうようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、ご家族様との時間を大切にして頂くよう、ご家族で話しやすい部屋や場所を提供しています。また、ご家族様が希望して支援される部分(買い物・病院受診)は、お願いをして共に生活を支えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と面会に来られた際は、家族との時間を大切に頂くよう環境を整えています。また、コロナ感染拡大に伴い、面会中止時は、窓越しでの面会や、電話、zoomにてオンライン面会のやり取りにて関係の継続が図れるように支援していきます。	入居者の多くが地元の方であり、ホームの場所そのものが馴染みの環境にある。自宅から行っていた場所として粟島神社や高橋の稲荷神社等に出かけたり、家族の面会は窓越しの他、ズームや電話の他、遠方の家族とのタブレットを通じた会話は相互の安心感として生かされている。また、買物ではお金を使う事も支援しており、社会性の継続や初詣では人出を見ながら出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方、気の合う方同士になるよう座席の配慮を行っています。また、重度な方や耳が遠い方、言葉がうまく出ない方などは、職員が中に入り皆様と関わり合える環境作りに努めています。また、新入居者様が入居された際は、職員が率先してコミュニケーションを図ります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、退所にて契約終了された方は、入院先へ情報提供し、その後も安心して過ごせるようにしました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様とのコミュニケーション、日々の様子、ご家族様からのお話より希望・思いを感じ会議や職員同士の日々のコミュニケーションの中で話をしています。	家族からの情報(アンケート等)を生かしたり、日々のケアの中で入居者とのコミュニケーションを図り、意思疎通困難な状況には分かりやすく話しかけ、目の不自由な入居者にもタッチングや声を掛け、思いの引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや情報書、会議より全社員への申し送りを行い、今まで(入居前)と出来る限り同じ生活リズムで過ごして頂けるようケアの統一を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態把握を行い、職員間で情報共有を行います。生活リズムを崩さないようにするとともに利用者の有する力を生かす・引き出せるよう、必要以上の声掛けや介護にならないように注意します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の状況や要望に応じて計画作成を行っています。	ケアマネジャーは、入居者の視点に立ち、本人がどう過したいか等家族の意向を確認し、日々生活をされる中で管理者からの意見をもとに出来そうな事案を聞き取りしている。入居初回はまずは生活の様子を確認時期として短期3ヶ月の目標を立て、介護認定変更による見直しや大きな変更が無い状況でも他族に聞き取りし、新たなプランを作成している。身体機能維持に向けたプランや外に出かける事が好きとする入居者には買物や散歩、自由に過したいとの思いに応えた具体的なサービス内容及び個別性のあるプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌を活用して情報共有。介護計画の見直し検討に生かしています。その中でよかったこと、うまくいったケアの記入を行い実践に繋げていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて臨機応変に対応が出来るように心がけています。「まずはやってみよう」という気持ちでチャレンジしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパー・公園・公民館を活用しています。まだまだ豊富にある地域資源を把握・活用ができていないと感じる部分もあるので、今後の課題と考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医(主治医)に定期的に訪問診療に来ていただき、必要時や緊急時には協力医に連絡し、指示を頂いています。また、その他のかかりつけ医や主治医にも定期受診をし、その際には職員が付き添うことで状態や、症状を伝えています。	本人・家族の希望に応じたかかりつけ医を支援し、協力医による月1回や2回など本人の状況による訪問診療や、職員との関係を図りながらももとの医療機関へ家族による受診支援が行われている。歯科は希望に応じ月2回訪問による治療や口腔ケアが行われている。自歯の方も多く、職員は食後の歯磨きを見守りや介助により状態が保てるようにしている。日常の支援の中では看護職員との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状や状態に変化がある場合は、看護師に報告、相談しています。必要時には、家族様・主治医に連絡し受診や、搬送対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、医療機関にご本人の状態やADL・認知症症状などを細かく情報提供します。また、入院中は定期的に医療機関に出向いたり、連絡を取り合い情報交換を行います。退院の際は、ご家族様・医療機関と相談し出来る対応を行い、迎入れの体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高度な医療が必要になる場合や、週末等の受入れの時、本人・ご家族様・主治医・管理者ケアマネでの早期から話し合いを重ね、実際その段階になってご本人様・ご家族様が出来るだけ戸惑われないよう説明を重ね、ご希望に沿うケアを他職種連携で行っていきます。	継続した医療が必要でなければホームで最終の支援も可能であることを説明している。入居時にはまだ、よくわからないと回答される方が殆どであり、そのような状態になった時点であらためて話し合いの機会を持っている。重度化・終末期支援に関する研修会を実施し、共有を図っている。	重度化・終末期支援に関する指針の見直しが検討されている。この2年間は高齢などにより退去も多く、職員は今後も本人・家族の思いに寄り添いながら日々の支援に努めたいとしている。ホームの現状に即した指針の作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・マニュアルで確認行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練で、昼夜問わず利用者様が避難できるよう避難場所の確認を行いました。また、BCPを活用し避難訓練を実施しています。 台風時の災害時、地域からのSOSサービス事業への協力も継続しています。	毎月、避難訓練などを実施しており、今年度は6月に地震を想定した訓練、9月に水害を想定し、本部まで避難する訓練、10月には火災訓練を実施している。6月の訓練では入居者が「昔は防災頭巾は被ったもんな〜」と話されたようである。避難や救命訓練時は、消防、救命隊員の協力、指導により実施している。ホーム内のコンセントや空調の確認は2ヶ月に1度実施し、備蓄は食糧やコロナ対応として確保している。避難訓練の様子は広報紙で報告している。	10月の訓練では運営推進会議メンバーや地域の方の協力を得て実施予定であったが、コロナにより実現には至っていない。状況を見ながら再度計画されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や日々の申し送りで意識を高めています。入浴では、各個々の希望により回数を決め安全に配慮し行っています。排泄に関する話を利用者様のそばでしないことを気を付けています。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援について、研修や申し送りの中で共有や振り返りの機会を持っている。同性介助を基本としているが、人員配置などの点から難しい場合もあるが、職員を交代するなどし、希望に添えるようにしている。呼称は反応なども見ながら苗字や下の名前で対応している。広報誌をはじめ写真掲載など、個人情報の使用について家族へ説明し同意を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表現することが難しい方や苦手な方にもわかりやすい声掛けを行い反応を見て行動するようにしています。職員のペースにならないように利用者様を観察し、待つことを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事・就寝時間も本人様のペースと希望に合わせて、出来る限り沿って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様から情報収集を行い、身だしなみはこまめに確認し対応しています。また、散髪も希望があった際は、ヘアースタイルの方にきていただきカットしていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が手作りから森永食研(湯煎対応の食事)へ変更となり、1年が経ちました。利用者様の希望に沿えるよう、月1回給食委員会を開催し、森永食研の方と行事食や、希望食、食べづらい食材などを相談しながら、安心して美味しく食べて頂けるよう連携を図りながら行っています。また、毎食前に検食し味や料などを確認している。	コロナによる人員配置や食の管理の必要性などから、湯煎対応食へ変更している。月1回給食委員会を開催し、業者と連携しながら入居者に美味しい食事が提供出来るようにしている。また、誕生会では希望食や手作りのおやつなど楽しみとなる食事支援にも努めている。キザミやトロミ食、やわらかめご飯や二度炊きなど、嚥下力に応じて準備している。目の不自由な方には食事内容や置かれている器の場所を丁寧に説明するなど、個々に応じたペースで食事を摂る事が出来るよう配慮している。	正月や雛祭り、うな井をはじめ行事食や、竹の子ご飯、サツマイモや食べやすく下処理された秋刀魚を使った庭先でのバーベキューなどホーム内でのイベント食を楽しんでいる。また、梅ジュースづくりでは梅や漬け壺選び、へた取りなど個々に応じた出番も用意されている。変わらぬ支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事量、食事形態(キザミ・お粥・とろみ)スプーン・箸などの対応をしています。1日を通して食事量や水分量が確認できるようにチェック表にて把握するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い歯ブラシやコップを準備し見守りしています。自力で口腔ケアが難しい方には、職員が口腔ケアの介助を行っています。月2回、歯科医師と歯科衛生士の訪診・チェックを受けてます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けと誘導を行い、トイレでの排泄習慣を育てるようにしています。チェックシートにて排泄パターンや状態の把握も行っています。	リハビリパンツの使用や、布パンツで過ごされる方もおられ、必要に応じて声掛け、トイレへの誘導が行われている。トイレは4か所備わっており、居室の近くや時間帯に応じた場所を使用されている。夜間のみポータブルトイレを使用される方も多く、個々に応じた設置場所の検討や清潔な管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足踏み運動や歩く機会、食事、水分摂取の工夫を行い、便秘予防に取り組んでいます。排便コントロールが必要な方には、医療機関と連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	完全個室体制を行い、プライバシーの確保に努めています。その方の希望に合わせて臨機応変な対応行っています。お湯温度や湯量、入り方など本人様のこだわりに沿って支援行っています。	2か所の浴室を使い、バイタルチェックにより入浴可否を見極め、週3～4回の入浴を支援している。温めの温度を好まれる方が多く、全員が湯船に浸かりゆっくりと入浴を楽しまれている。着替えの準備は職員が行っているが、中には自分で揃える方もおられる。菖蒲や柚子を使った季節湯の継続や日常的には入浴剤を使用しながら入浴を楽しんでもらっている。入浴後は保湿や水分補給に努め、夏場はスポーツ飲料、冬場は麦茶を中心に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご自分の居室で休息される方は居室にて、その他にもゆっくりでできるスペースやソファも準備しているので、希望に合わせた使用をしてもらっています。夜間は個室の居室に休まれ、照明の調節やナースコールの設置定期巡視にて安心して過ごせる配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は飲み忘れがないように口内へ与薬介助し確実に飲まれるのを確認しています。看護職管理職のもと、内服管理と支援行っています。薬の変更や追加があった場合は様子観察を行い、必要時には主治医に連絡しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、掃除などその方の力を生かした好まれることしてもらうことで、役割を持ってもらっています。嗜好品を一緒に買いに行き、楽しみと気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物が好きな方は買い物へ行ったり、季節に応じて花見やアジサイ見学、鯉のぼりなど季節を感じてもらえるような外出活動も計画しています。	希望や天候を見ながら毎日、数名ずつ30分程、散歩や外気浴を兼ねた外出を支援している。住宅に入りガーデニングの様子を眺める30～40分の散歩コースもあり、「外に出ると空気が違う！」と言われる方もおられるようである。車を使った外出では、入居者に馴染みの神社(あわしま神社)や紫陽花、こいのぼり見学など地域資源も活用しながら外出を支援している。	コロナ感染症の状況を見ながらチャンスを見逃さず多くの外出支援が行われている。昨年に続き、正月外泊を希望されている方もおられる。実現が期待されるところである。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の際には、好きなものを選んで一部介助にて支払いを行っている。お釣りをもらい財布の中に入れてくれるまで見守りをするようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の面会・電話希望される方には対応しています。また、残暑見舞いのはがきを作成し、家族へ郵送をしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室とトイレはホールから少し離れた場所へ設置され、直接中が見えないようにプライバシーの確保に努めています。家具も利用者様の体形に合わせて使えるものを設置しています。また、オープンキッチンにすることで、食事の香を感じてもらっています。また、ホール空間では、季節感を感じてもらえるよう、飾りつけをしています。	テレビが置かれた共用スペースは食堂側と居室側の2か所設けられ、時間帯や状況に応じて使い分け、メリハリのある時間を過ごすことが出来ている。ホーム内では全員が独歩であり、歩行の妨げにならないような環境を心掛けている。リビングには、職員は楽しい作業となるようアイデアを出し合い、入居者と一緒に作成した季節ごとの壁面が季節感を醸している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやテレビ、ホールから離れた場所に畳の空間を設置することで、皆と違うテレビを見たいとき、ひとりでゆっくりしたいときに自由に活用されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の状態に応じて、和室、洋室、布団、ベッドを使用してもらっています。また、希望に合わせてご自宅より使い慣れた家具や物を持ち込んで頂いたりもしています。	入居前の見学で部屋を見てもらい、馴染みの品などの持ち込みが行われている。和室や洋室が設けられ、身体状況や生活習慣などからベッドや布団を個々に応じて使用されている。テレビやラジオを持ち込まれた方は、相撲や野球などを好んで居室で見られるようである。ソファを持ち込まれたが安全面からホールへの移動を行ったり、靴を脱いでの入室を促す張り紙でサポートするなど、個々に応じて支援している。昼食後は居室で昼寝やひと休みをされる方も多く、布団も整頓を心掛けている。	現在、衣替えは担当職員が行っているが、面会を控えている家族にとっては、直接居室を確認できない事は気になる点と思われる。衣類の整理をはじめ、掃除や換気などホームの取組を発信することで安心に繋がると思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは3種類浴室は2種類あり、使いやすい所を利用されています。また、浴槽も入りやすいように座って入れるスペースなど工夫をして自力で出来る環境を作りました。		